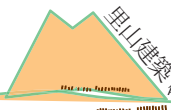


3く3く

第11号



里山建築研究所筑波山麓録



特集

- メドアグリクリニック 01
- アグリケアガーデンかすみがうら有料老人ホーム 04
- メドアグリクリニック デイケア棟 06
- メドアグリクリニック 外来入院棟 07

report

- 板倉小屋づくり 08
- 方丈板倉「斎」第1棟目竣工

『メドアグリクリニック・アグリケアガーデンかすみがうら』

特集

長く生きてきた屋敷林と古民家を 老人福祉施設として守り受け継ぐ



写真：齋藤さだむ

有料老人ホーム食堂ホール。大黒柱の太さは39cm。

筑波山の麓、霞ヶ浦のほど近く、旧街道に面した旧家の敷地1haあまり。そこ

風林として屋敷林をできるだけ残した。

は、明治の初め頃に建設された茅葺きの主屋、長屋門、離れが残され、周りに樹齢150年を越すスギとケヤキ、カシに鬱蒼と覆われた森であった。この場所の長い歴史と豊かな環境を受け継いで、有料老人ホームと外来入院棟を新築し、母屋をデイケア棟として改修した。これは地域の福祉医療の拠点として整備することを目指したものである。

各棟は、相互に連携したサービスができるように回廊のようにめぐる渡り廊下で繋がれている。敷地北側に新たに設けたアプローチから入り、ケヤキとカシの大木の並木をくぐりぬけると、有料老人ホームの玄関車寄せが深い軒を差し出して来訪者を迎える。その日からから伸びるように回廊で外来入院棟、デイケア棟へと導かれる。その中心にはカシの巨木と屋敷神が祀られており、この生まれ変わったこの施設の変わらぬ平穏を見守っている。

有料老人ホーム棟と外来入院棟は、屋敷林の大木をできるだけ残し、木造平屋の施設が森に溶け込むような配置計画とした。

敷地の南側の低地は、竹林と杉林であったが、伐採して遊水池を設けるとともに各棟への日照と眺望を確保した。北側及び東側は防

アグリケアガーデンかすみがうら 有料老人ホーム

有料老人ホームは、建設された3種の建物のうち最も大きな建物で、北棟と南棟の2棟からなる。「この木立の中に、入居者の終の住まいとなる木の家をつくりたい」という建主の思いに添い、周囲の屋敷林が保存できるような配慮しつつ、北棟は居室が中庭を囲む形に、南棟は談話コーナーを中心に鉤形に配置した。

林に囲まれた環境を活かし自然の通風や採光をとりこめるよう高窓や越屋根を設けた。そして、準耐火建築物の要件を満たしながら、内外装のほぼ全てを無垢のスギ材（床はヒノキ材）で仕上げた。また入居者が目にしたり触れたりする部分に極力木を現し仕上げることで、木材の持つ調湿性等を最大限活かし、住まいとしての環境を整えた。

スギ材は、この棟が位置する場所に立っていた屋敷林から調達したものである。樹齢150年を超える50本の立木を伐採、製材、乾燥させ備えた。丸太の

中心部は梁や柱等の構造材として利用し、その外側や小中径木は板に挽いて、内外装の壁材・天板等に利用した。特に5.6間×6間の食堂・談話室の大きな吹き抜け空間を支える構造は燃え代設計とし、大径材の柱や幾重にも重なる梁を現しにした。この大空間を支える大黒柱と副大黒は、屋敷林の中でもひときわ目を引く樹齢180年程の大径材を挽き用意したものである。壁には同様に製材した30mmの厚板を縦に張り廻らした。かつてあった場所に帰った木々が、木立の風景をここに再現しているようである。中庭には池をつくり、そこに泳ぐ錦鯉は入居者の心を和ませるであろう。

有料老人ホーム DATA

用途 有料老人ホーム（居宅型）

延床面積 1497.73㎡

敷地面積 6475.60㎡

外部仕上げ

屋根 ガルバリウム鋼板立ハゼ葺き

外壁 スギ板ア,18mm 大和張り

準耐火構造耐力壁 カベボーア,25mm、

鋼製サッシ

内部仕上げ

床 ヒノキ本実板ア,30mm 一部漆塗り

壁 スギ本実板ア,12mm 一部不燃材佐官仕上

石膏ボード2枚張り

建具 木製建具

設計 里山建築研究所

施工 三共建設



写真：齋藤さだむ



食堂ホール。縦横に組んだ梁組で構成された広い空間。中央部に腰屋根が吹き抜けて自然光が柔らかに差し込む。



有料老人ホーム棟正面玄関。軒を深く差して来訪者の利便性に配慮した。



雁行する廊下に設けられたラウンジ。中廊下は腰屋根で天井が高く高窓から差し込む光で明るい。



写真：齋藤さだむ



上／奥は続き間の座敷はそのまま休憩室として利用。

右／太い松梁で組まれた土間と広間を機能訓練室として活用。床はすべてカラマツの板張りに改修。

左／デイケア棟 築 100 年の古民家。屋根は茅葺きの上に銅板葺きとなっている。



デイケア棟 DATA			
用途	外部仕上げ		内部仕上げ
延床面積	280.25㎡	84.80 坪	床 カラマツ本実板 厚 15mm
敷地面積	3686.03㎡		壁 スギ本実板ア 12mm、漆喰塗り
		建具	木製建具
		建具	鋼製建具、一部木製建具
		設計	里山建築研究所
		施工	大崎材木店

デイケア棟

玄関を入ると室内の隅々まで見渡せる板間の空間と、幾重にも組まれた骨太の松丸太の梁組に迎えられる。メドアグリクリニックかすみがうらのデイケア棟は、明治期に建築された築約150年の旧家の主屋をデイケアサービス施設として改修したものである。地域の高齢者が、馴染み深い木造古民家の空間で自宅にいるような気持ちで安心して過ごせるように、との建主の思いから、この古民家を生かした計画が始まった。

銅板の瓦を被せた大きな茅葺き屋根、広い土間や日常の出入り口と別に設けられた式台玄関は、この家の格式を物語っている。間仕切りの建具は、静養室として使用する座敷まわりのみを残して全て取り外し、開放された広間は食堂・機能訓練室として利用者全体に目が行き届く。また、台所、浴室の水廻りとして使用されていた増築部分は、車いす対応便所、介護浴室として改修した。災害時にも利用できるよう、浴室の給湯は薪ボイラーを併設、室内には調理も可能な薪ストーブを設置した。

一尺（30cm）角のケヤキの大黒柱、スギの柱、松丸太の梁組の構造はそのままに、壁は一部既存の土壁を残して1寸（30ミリ）厚のスギ板を張る板倉構法で補強した。また、スプリンクラー設備と排煙設備を設けることで内装制限の適用が除外され、室内の床、壁、天井全てを木質化することが可能となった。壁、天井はスギ、床はカラマツの無垢板で仕上げている。土間から天井を見上げると、一部茅葺きの名残を屋根裏に見ることができる。

高齢者には負担となる古民家の大きな段差は、リハビリ用の階段と、車いす使用者にも対応するため室内にスロープを設け解消している。

人の寿命のはるか長い年月、大切に受け継がれてきた民家が、傷みに手を加え誇らしげによみがえる姿は、リハビリに通う高齢者にとっても大きな励みとなるであろう。また、本来の用途である住まいとしてはなく、リハビリ器具が並べられた高齢者の機能訓練の場としても、あるべくして自然に受け入れる古民家の懐の深さには改めて感服するばかりである。



アグリケアガーデンかうすみがうら全景。外来入院棟は正方形の漏斗型の屋根が特徴的。



外来入院棟

外来入院棟病室（4人部屋） 板倉づくりで床はヒノキ、天井は杉板張り。



中央に中庭を設けて光と風を取り入れそれを巡るように受付、診療室、病室が配置されている。



中庭は谷を流れる川をイメージ。屋根から集まった雨水が効果的に排出される。

外来入院棟は、板倉構法による平屋建ての有床診療所である。個室、4人室をあわせ、19床の入院患者を受け入れる。

構造は板倉構法（落とし込み板壁）を基本とし、内壁、床、天井をスギ、ヒノキの厚板（3cm）の表で仕上げた。無垢の木材の持つ、断熱、調湿、香り、柔らかな音、五感に働きかけるやさしい木の空間に、患者や医師看護師が包まれることを意図した。

外装は住居棟、デイケア棟を同じ仕様のスギ板の大和張りとし、農家の佇まいを残す風景に調和させた。

間取りは敷地の形状から正方形に近いプランとし、中庭をめぐる回廊に、待合や談話コーナーを設けた。中庭から差し込む自然光と通風で明るく風通しの良い場となっている。各病室は外周に配置し大きな開口部からは自然光と屋敷内の景色を楽しむことができる。

見舞客や外来患者の利用する共用空間では、ヒノキの独立柱を象徴的に用い、スギの大径材を割った無垢の厚板で、テーブルやベンチ、カウンターなどの家具内装を制作した。

建設にあたって地域の材木店、大工、プレカット工場が連携し、茨城県産材の木材を積極的に利用した。その結果、木材使用量は平米あたり約0.5㎡、総量15.9㎡に達した。これは通常の在来工法の約3倍の木材量で、平成30年度茨城県の「いばらき木づくりチャレンジ」に採択された。

外来入院棟 DATA	
用途	診療所（有床）
延床面積	323.19㎡
敷地面積	3686.03㎡
外部仕上げ	
屋根	ガルバリウム銅板立ハゼ葺き
外壁	スギ板大和張り、15mm
建具	銅製建具
内部仕上げ	
床	ヒノキ本実板、30mm
壁	スギ落とし込み板表し、一部漆塗り
建具	木製建具
設計	里山建築研究所
施工	大崎材木店、三共建設

板倉小屋づくり

さとやま工作所

里山建築研究所の施工部門「さとやま工作所」の活動。昨年設計監理した住宅の建て主さんからの依頼で約3坪の物置小屋を増築しました。

屋根は母家と同じ瓦葺き。棟の位置を揃えて一回り小さな親子屋根としました。外壁はスギ板横張りとして縦張りの母屋と変化をもたせました。防火規制のある地域ですが、防火構造の大臣認定を取得している、「板倉構法」なので外壁を無垢板で仕上げるができます。将来的に移築することや離れとして改修することも想定した住み心地のよい立派な小屋ができました。



右 落とし込み板は予めパネル化しているので1日で上棟
左 棟木は建て主さん自らカケヤを使っておさめる

方丈板倉「斎」第1棟目竣工

新たな居住様式の提案

日本板倉建築協会（事務局：里山建築研究所）が、新型感染症拡大後の新しい居住様式の提案として板倉構法による3坪の小屋、方丈板倉「斎（さい）」を企画開発しました。この新しい板倉小屋の1棟目が竣工しました。

これは協会理事である杉岡製材所（福岡県朝倉市）が建設したものです。1尺（30cm）モジュールで設計された「斎」に合わせて杉岡さん自らスギの中大径材を選び製材して適材適所で使っています。屋根は事務所スタッフ総出で採取したという杉皮で葺かれています。

「製材所ができることをこの小屋ですべてみせたい」と杉岡さん。「斎」は杉岡さんの製材に対する強い気持ちが形となったように感じます。現在2棟目となる方丈板倉「斎」の建設が進行中。今後の「ろくろく」をご紹介します。



貴で組まれた立派な高床が風格を与えている



象徴的な丸柱がロフトを支えている



杉皮で葺かれた屋根

株式会社里山建築研究所

〒三〇〇―四三三三
茨城県つくば市北条一八四
TEL: 029-867-1086
FAX: 029-867-1083
URL: <https://satoyama-archi.co.jp/>
E-mail: sai@satoyama-archi.co.jp

会社概要

里山資源を生かした居住スタイルを探る実践的な試みの場として、筑波山の山裾に開設したのが、里山建築研究所です。現代の里山に循環を取り戻すべく考案された板倉の家を提案し、時代の趨勢によって変わり続ける民家の現代のかたちを探ることが、私達の試みです。

しごと

設計・設計監理・請負工事
「板倉の家」…新築、改築
「民家再生」…改築、移築
「茅葺き」…葺き替え修繕、新築
「企画制作、調査研究」
「地域づくり支援活動」

編集後記

里山建築の約15年の歴史のうち最大の建築物となったメドアグリケアガーデンがすみがうら。医療や福祉の現場は無機質になりがちですが、利用者、患者の立場に立ち、ホスピタリティを高める新しい試みに板倉構法、木造建築でお力添えできたことを嬉しく思います。（K）

